



連邦検察庁は10月12日、ルーラ元大統領に対し、三つ目となる告発を行なった。今回は、元大統領としての影響力を行使して自身に不正な利益を取得した疑惑。具体的には、自身の融資を働きかけた連邦銀行(BNDE)からオデブレヒト社への融資を行なった。アントニオ・ペドロ・リベリト社の事業が実現するよう、ルーラ氏はオデブレヒト社と同開発銀行に影響力を行使して、ルーラ氏が作った講演で、ルーラ氏の前妻の兄弟の息子だ。支払の兄フレイ・シコ氏の健

の告発は、連邦裁判所に対するもの。告発をされたの

## 甥を介した贈収賄工作も

ルーラ元大統領に対し、三つ目となる告発を行なった。今回は、元大統領としての影響力を行使して自身に不正な利益を取得した疑惑。具体的には、自身の融資を働きかけた連邦銀行(BNDE)からオデブレヒト社への融資を行なった。アントニオ・ペドロ・リベリト社の事業が実現するよう、ルーラ氏はオデブレヒト社と同開発銀行に影響力を行使して、ルーラ氏が作った講演で、ルーラ氏の前妻の兄弟の息子だ。支払の兄フレイ・シコ氏の健

の告発は、連邦裁判所に対するもの。告発をされたの

## 開銀に影響力行使で收賄か 検察庁から三つ目の告発



3度目の告発を受けたルーラ氏 (Ricardo Stuckert / Instituto Lula)

# 歳出上限法、大差366票で承認



歳出上限法の承認を喜ぶ与党議員達 (Lula Marques/ AGPT)

【既報関連】下院特別委員会で6日に承認された、公費歳出上限を定めた憲法改正案(PEC do Teto、歳出上限法と略)が週明けの10日、下院本会議で採決にかけられ、賛成366票、反対111票、棄権2票の大差で承認されると、11日付伯字各紙が報じた。

## 次回採決は今月末の予定 大統領「下院が決意示した」

エンリケ・メイレス財相は採決前に滞在先の米国ニューヨークで10日、「上限法が承認されなかつたら、当然次善の策を考えねばならないが、それは伯国にとって上限法よりもずっと厳しい道(増税)になるだろう。承認が今取りうる最良の方策だ」と語ついた。

この歳出上限法は、17年の歳出は2%の上昇だが、その後はインフレ率以上には歳出を増やせない上限を設けること

で「事実上の凍結」とす

るもの。0年から15年までは国家歳出はインフレ率プラス6%のペー

ンスで増え続け、インフレ傾向を助長してきた。そ

れにフタをするものだ。

この歳出上限法は、17年の歳出は2%の上

昇だが、その後はインフレ率以上には歳出を増やせない上限を設けること

で「事実上の凍結」とす

るもの。0年から15年までは国家歳出はイン

フレ率プラス6%のペー

ンスで増え続け、インフレ



# ニッケイ俳壇

(910)

星野 瞳 選

新津 稲鷗

アリアンサ

麻州野の大夕焼の森閑と

鳳梨壳る皆の如く積み上げて

霧の中飛び来るは皆トッカーノ

人あまり通らぬ街路バイナ數く

短日や自転車の道暮れ初めし

痩せ細に月満ちし度霜三度

花の雨藤ほろほろと落ちにけり

春光の燐燐として野原かな

蝶々や名もなき花に日がなかな

花は満開人ばかりして桜餅

盆栽の梅が咲いたと来し電話

丹精の甲斐を見せたい盆の梅

春待つや大きく胸張り深呼吸

蝶々や名も似合ふ赤きシャツ

御仕着せのシャツ着て老犬春を待つ

音もなく肩をぬらしぬ冬の雨

おろしと細き大根の響

金髮に似合ふ深紅やマフラーの娘

重ね着や老にも似合ふ赤きシャツ

デコボンと誰が名付けし稚拙とも愛嬌とも言わ

れ馴染める『実相観入』とは、茂吉の歌論、だが

そう難しく言わざとも、氏の作品は肩肘張ら

れない、びたり据わっている。被写体へのレンズ

ののぼりと、シャツターの呼吸なのかもと

三十文字にとらえれる韻律は感性の豊かさから

らず、必ず生れるのです。『広き云館太鼓の響

く』、聴覚の心地よさ。

渡り鳥ふる里向こうて旅立つや雲重ねたる空搔き

分けて藤波も機嫌損のうあるや花房淋し降りそむる雨

久し振りに戸棚の奥のレセイタ出し作りしブディ

ン孫らに受けたり

三寒四温まだ来ぬ春を呼び止めぬ  
一とはけの雲を残してつづく咲く  
暁春をついて迎えぬ御来光

春泥の車を先づは洗わねば

父の日をしたい子等は来て居りぬ

ソロカバ

前田 昌弘

春一番オの五輪へ草木もなびく

黄金のメダルが光る風光る

九十八の師の温顔や春の句座

釣りで出掛けで見るか水温む

素心花や舞うバドミントンの羽根の如

リオ五輪バ一跳ぶ人馬体に

リオ五輪終わり汚職の劇づく

健気なる女性の馬術やりオ五輪

リオ五輪バ一跳ぶ人馬体に

リオ五輪終わり汚職の劇づく

露の世を永らふ大正生まれかな

始まりも最後もサンパリオ五輪

春窮や隣の売り家も古り

春の野にすこし肥えたる牛の群れ

雨上がり蕨の字を字ぐし延ぶ

春雷や夜半にはじまる雨の音

セビヤ色に夫仏だんに真顔かな

日溜りを犬と猫とがうばい合う

日の暮れて取り込む布団まだぬくし

桜餅作つて欲しいと子が所望

サンパウロ

佐古田町子

長閑さに芝生駆けたき旅の宿

春光を悦び白牛は群をなし

行儀よくユーカリ天つく春の旅

健康が第一ですよとユーカリ林

大王椰子ホテルの前に仁王立ち

サンパウロ

寺尾 貞亮

輪唱かはた又合唱百千鳥

西山ひろ子

花房の伸びてゆらゆら庭の藤

轡耳に真珠粒身返る

春雷を耳遠き人捉えけり

鳥帰るこの国終と決め吾

轡耳に時せまりくる夜の余寒

渋滞に時せまりくる夜の余寒

春屋や赤子をあやす子守唄

犬敏く啓蟄に鼻こすりつけ

鳥歸るこの国終と決め吾

轡耳に時せまりくる夜の余寒

春屋や赤子をあやす子守唄

犬敏く啓蟄に鼻こすりつけ

鳥歸るこの国終







